

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人幕別真幸協会		
事業所名	グループホームくつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1 (電話) 0155-20-6767		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年7月11日

【情報提供票より】 (平成20年5月13日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年1月24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木・鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヶ月 35,000 円		

(4) 利用者の概要 (5 月 13 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	6	要介護2	0		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87.3 歳	最低	83 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萩原医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>帯広市南東部の商業施設と住宅が混在する地域の中にあり、元銭湯を改修した造りで地域にも親しみのある建物である。事業所の母体法人は、特別養護老人ホームを運営しており、人事交流も利用者への影響を最小限に配慮しながら行い、質の高いサービスを提供している。定員が8名と少なく現在は女性の利用者のみで、7人の職員と共に、自分の役割を持ちながら和気あいあいと生活している。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 法人全体の「たより」は、年4回発行している。その他、利用者の家族には毎月の様子を報告している。また、緊急時の対応として、講習会を受講し備えているとともに、消防署をはじめ、地域の協力を得られるよう働きかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果は、職員会議の中で報告し、ケア向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、活動やサービス状況を報告し、意見や要望を聞いて今後のサービスの向上に努めている。また、自己評価や外部評価の結果についても会議において公表している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に2名の家族がメンバーとして入り、意見を反映させている。その他、来訪時や電話等で家族に報告し意見を聞いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し町内会行事(温泉旅行・パークゴルフ)等には積極的に参加している。また、保育所の行事にも参加し、地域・子供たちとふれあう機会を大切にしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全体会議では、理念を職員全体で話し合い、具体的なケアについての意思の統一を図っている。	○	現在の理念を元に、事業所と地域の関係性を強化する理念をつくる取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすいところに掲示し、日々の暮らしの中で、その人らしく安心した生活が出来るように理念に基づいたケアサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事（温泉旅行・パークゴルフ）等には積極的に参加している。また、保育所の行事にも参加し、地域・子供たちとふれあう機会を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果は、職員会議の中で報告し、ケア向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、活動やサービス状況を報告し、意見や要望を聞いて今後のサービスの向上に努めている。また、自己評価や外部評価の結果についても、会議において公表している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居や退去の情報や事業所の現状について連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りに行事等の写真を載せて、現在の様子を知らせている。また、心身の状況に変化が見られた場合は、その都度報告している。金銭出納帳は3ヶ月に一度家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に2名の家族がメンバーとして入り、意見を反映させている。その他、来訪時や電話等で家族に報告し意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との馴染みの関係が継続されるように努めている。異動・離職時は利用者きちんと紹介するとともに、新しい職員と触れ合う機会を多くしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外研修に出来る限り多くの職員が参加し、研修内容の報告の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会に参加し、他の事業所の活動・状況を聞く機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。	○	今後は更に、人事交流の取り組みを期待する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前から本人・家族と話し合い、利用前の生活を出来る限り取り入れ、馴染みの物を持ち込むなど、利用者が安心して生活出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者から教えてもらう場面や共に行う場面をつくり、お互いが協働しながら生活し、共に悩み、考えることにより、笑顔をいつも見られるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者本人や家族関係者から、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを日頃の関わりの中から聞き取り、介護計画の中に取り入れている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、毎月、スタッフ会議・モニタリングによって状況変化に応じた見直しを行い、現状に即した新たな計画を本人・家族と話し合い作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や地域の行事参加など、本人の希望にあわせて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での医療が継続されるよう、家族に協力し通院介助を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の気持ちを大切にし、家族やかかりつけ医・職員と話し合い、ケアの方針を共有し対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを侵害しないような言葉かけや対応を行うとともに、記録等の個人情報は所定の場所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、本人の意向を確認しながら希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備を行い、食事をしている。同じテーブルで和気あいあいと食事を楽しんでいる。食後の片付けも利用者と共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間・温度など、一人ひとりの希望を聞いて入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の出来ることを利用者個々にしてもらい、家事への参加や、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・楽しみごと（縫い物・書道など）・気晴らしの支援をしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物・ドライブと、気分転換出来るように、戸外に出かける機会を多くもつなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が見守りをすることで、居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、避難訓練を行い、消防署・地域の人々の協力が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食べる量や水分量チェックを行い、一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行っている。また、栄養士によるカロリー計算された栄養バランスのよい献立を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にテーブルや椅子を置き、外気に触れたり花を眺めたりできるよう配慮している。居間もゆったりしていて、家庭的な雰囲気をも出し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品・写真などが持ち込まれ、利用者の居心地の良さに配慮している。		

※  は、重点項目。